

標準的なカリキュラム案における言語及び言語習得についての考え方について(案)

【言語について】

- ①言語は、すべての人にとって生活する・生きるために不可欠なものである。
→生活基盤の形成を重視
→社会・文化的情報の提供
- ②言語は、自らの思考力や想像力を高め、感情を表現する上で大切なものである。
→対話による相互理解の促進
- ③言語は、人との触れ合い、語り合い、学び合いに不可欠なものである。
→専門家・市民の協力・参加を重視
→学習者・支援者の主体性を重視

【言語習得について】

- ④言語は、その言語が使用されている生活上の必然性・必要性の中で習得されていくものである。
→体験・行動中心の教室活動を推奨
- ⑤言語習得の過程は、個々人によって多様であり、必ずしも順序性があるわけではない。
→地域や学習者の実情に応じた工夫を期待
→教育内容の選択と工夫を重視
- ⑥言語は、生活上の行為場面と切り離された、言語事項を学ぶだけで習得されるわけではない。
→実物やイラスト、写真を多用した指導を重視

◎標準的なカリキュラム案（特に「生活上の行為の事例に対応する学習項目の要素」における項目の並び方や「実践例（活用例）」、「教室活動の方法の例」）では言語及び言語習得を①～⑥のようにとらえている。